



上流で左右に分かれるが右俣に入る。こちらにも形の良い滝がいくつかあり目を楽しませてくれる。上流で沢を離れ、対岸右山腹を登ってゆくと、幕営適地の越百小屋跡地を經由する。今回は、沢を離れる地点（斜めの岩に固定ロープがかかっている、下の写真）で対岸右山腹の溪谷道を見失い、そのまま沢沿いを適当に登るとまもなく水が涸れ、沢形が消え、あたりを見渡すと、さいわい溪谷道の赤テープを再び見出せた。

越百小屋跡地をパスしてしまったことに気づかず、いきなり主脈縦走路に出合ったので、驚いた。越百山へ向かってしばらく進むと、幕営適地があり、ツェルトを張って潜りこむ。雪を踏んだせいかしびれるように冷たい沢タビを脱いで、足を拭くとホッとした。その直後に、ひとしきりザーッと降り、うっすらと雪化粧だ。

< 10月11日（日） >

夕べは寒くて良く眠れなかったが、素晴らしい天気だ。少し登った越百山頂上より四囲の大展望を満喫する。

北アルプスや南アルプスの荒川岳付近はうっすらと雪化粧している。15人ほどのおばさん団体が木曾側から登って来たこともあり、静かな南越百山まで足を伸ばすと、安平路山から摺古木山へと伸びる南部稜線が遠望される。

予定では、手前に見える奥念丈岳から与田切川をのんびり釣り下る予定だったが、この足の具合では少々心許ないので、後ろ髪を引かれる思いで、往路を下山することにした。冷たい沢タビを履く気にはなれないので、運動靴で下るが、何度か滑ってしまった。昨日撮った写真を取り直しながら慎重に下る。3連休の中日というのに、溪谷道では、単独行者2名が登ってくるのに出会っただけであった。（なお、写真は、できるだけ天気の良い復路のものを載せました。）